

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進北小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の習熟とその知識・技能を活用してより深い学びの両輪で行う必要がある。知識・技能を漢字や計算のドリル、ドリルパークなど多様な形式の問題を通してより定着を図る。(毎週木曜の朝自習や授業の最初の5分で実施)授業の最初などの前時の学習内容の定着度を図るためのミニテストを実施する。(国語・算数を中心に3分実施)
思考・判断・表現	学校課題研究で自ら課題を立て、その課題解決に向けて自ら学ぶ学習過程に定着を図る。「じ・し・や・く」のサイクルを重視した授業づくりに取り組み、より深い学びができるようにする(学年ごとの研究授業の実施)。このような学習を通して、学ぶことの楽しさや面白さを児童がより実感できる授業づくりを図る。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>知識・技能への関心はある程度高いが、定着を図ることがやや難しい。 <指導上の課題>知識・技能において、如何に子どもの主体性を生かしながら定着を図るようになるか。	漢字や計算のドリル、ドリルパークなど多様な形式の問題を通して、主体的な活動によって定着を図る。(毎週木曜の朝自習や授業の最初の5分で実施) 授業の最初などの前時の学習内容の定着を図るためのミニテストを実施する。(国語・算数を中心に3分実施) 【さいたま市学習状況調査で知識・技能を2pt向上】
思考・判断・表現	<学習上の課題>算数・理科・社会などで図やグラフ、資料を使っている問題に於いて読み取りがやや浅く、早急に結論を求めると、 <指導上の課題>個々の学び方の格差があり、じっくり深く思考する授業づくりが難しい。	文章による問題だけではなく、図やグラフ、資料を使用している問題など、様々な形態での課題提示を工夫し課題意識を高める。 学校課題研究で「じ・し・や・く」のサイクルを重視した授業づくりに取り組み、より深い学びができるようにする。(学年ごとの研究授業の実施)【さいたま市学習状況調査で社会科の学習に於いて資料から読み取る問題を2pt向上】

⑤ 授業改善策の達成状況	
知識・技能	B 毎週の木曜日の朝自習の時間や授業での開始にミニテストを行い、反復練習は習慣化できている。学習のまとめでは、ドリルパークや各種ドリルを使用して漢字や計算の習熟を図ることができた。 さいたま市学習状況調査の結果では、ほぼ昨年度と変わらない結果であったが、「コンピュータを使って学習する」項目においては、低学年を中心に向上している。
思考・判断・表現	B 学校課題研究を柱にして「じ・し・や・く」のサイクルを重視した授業づくりを全学年で推進できた。また、児童が自ら課題を設定し、探究型のより深い学びを実施できることが多くなった。 図や資料などを使っての学習では、読み取る力が複数の学年で向上した。 今後さらに自分の考えを他の児童とかかわらせ、より多角的に考察させる当の協働的な学習展開への授業改善を行っていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「情報の扱いに関する事項」の問題で、情報と情報との関係付けの仕方や語句と語句の関係の表し方にやや課題がみられた。それぞれの情報や語句の内容を的確に捉えることが不十分だったと考えられる。 算数の「数と計算」領域の問題で、数量の関係を口を用いた式に表すことに課題がみられた。問題の中の数値の関係性に気づき、立式することが不十分であったと考えられる。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がみられた。資料の使い方やそれを説明する文章の工夫が不十分だったと考えられる。 算数の「データの活用」領域の問題で、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表すことで課題がみられた。表から正しい数値を読み取ることが不十分だったと考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数「数や計算」「図形」や国語「話すこと・聞くこと」での基礎的な知識に関しては、いくつかの学年で向上がみられた。朝自習やそれぞれの教科での取り組みの成果がみられた。今後もさらに楽しさを味わわせながら活動を実施する。 「書くこと」についての基本的な知識・理解に問題がみられた。タブレットの使用も書く活動が少なくなっているが、国語の時間を中心に取組を充実させる。また、書く活動を通して表現することの楽しさや必要性を感じる指導を行う。 家庭と連携を図りながら、自主学習を奨励し、学び方の指導をこなうことで自走できる児童を育成する。
思考・判断・表現	すべての学年で算数において、データの活用に改善がみられた。グラフや表などの正確な読み取りや活用が定着してきた。また、タブレットを使用して多くの資料から必要なものを読み取り、活用することが良い結果に繋がっていると考察できる。 思考・判断・表現において全体的に課題がみられた。学校課題研究で取り組んでいる、「じ・し・や・く」のサイクルを重視した授業づくりに取り組み、思考を働かせより深い学びができるようにする。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	漢字や計算のドリル、ドリルパークなどを毎週木曜の朝自習や授業の最初の5分で実施することは概ねできた。クラスや教科によって取り組み方に差があるので、さらなる習慣化を図っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	図やグラフ、資料を使用している問題など、様々な形態での課題提示を工夫することはクラスや学年でやや差がみられる。学校課題研究で「じ・し・や・く」のサイクルを重視し、主体的でより深い学びについては、各学年で研究授業を実施して計画的かつ実践的な研究ができ、児童の発達段階に応じて少しずつ定着が図れた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)